

第 20 回むつ市市民協働まちづくり会議 会議録

1 日 時 平成 28 年 3 月 24 日（火） 18 時～20 時

2 場 所 むつ市役所本庁舎大会議室 A

3 出席者 【委員 11 名、市職員 3 名】

伊藤和子委員	菊池三十義委員	工藤 薫委員
久保里砂子委員	桜田真佐委員	立石 圭委員
傳法久昭委員	中川 渉委員	馬場久美子委員
福田貴宏委員	松岡敦子委員	
教育委員会総務課 二本柳 愛		商工観光課 鎌田隆夫
総合戦略課 蛭名貴大		

【アドバイザー】

studio-L 醍醐孝典

【事務局 4 名】

市民連携課長 立花一雄
市民連携課主任主査 山崎 学
市民連携課主査 川部小枝華
市民連携課主事 山田侑季

4 欠席者 【委員 5 名、市職員 2 名】

久保咲絵委員	国田とき子委員	竹内博之委員
向井正大委員	米田さとみ委員	
生活福祉課 成田一郎	大畑庁舎管理課 成田寿美歌	

5 会議録確認者 立石 圭委員 傳法久昭委員

会 議 概 要

1 会長あいさつ

いよいよ最後の会となった。今回は、2年間取り組んできたことの振り返りと総まとめ。市長の諮問に対しての答申（案）の確認と、次年度むつ市で予定している「まちづくりコーディネーター」の内容についての検討。今回で最後となるが、皆さん楽しみながら取り組んで欲しい。

2 答申（案）の確認

【答申（案）を全員で確認のうえ、修正や加筆を行った後、全員から了承を得た】

【新年度からスタートを予定している5名の「まちづくりコーディネーター」について、第2次市民協働まちづくり会議委員から4名が推薦された。残り1名は、第1次市民協働まちづくり会議委員から選ぶことを提案】

2 醍醐さんから事例紹介とメッセージ

協働をどう捉えていくのかということは、全国の自治体・地域で問われている。むつ市はむつ市なりのやり方をみんなで発明していく必要がある。コーディネーターの活動内容は、上手にまとめていて完璧だと思うが、やりながら新たに必要なものが見えてくる。

東北に初めて来た年に、むつ市と関わる事ができた。東北の色々な課題として、少子高齢化が特に進んでいるエリアだということは頭でわかっているが、実際に現場レベルで活動されている皆さんと接しながら、高校生とも接する機会を作ってもらい、改めて大変だと思った。

これからは福祉のテーマが、どこの自治体でも重要になってくる。去年、アクションプロジェクトチームが福祉の取組を実践している。地域のことを良く見ている、課題も捉えている。昔は個人の周りに家族という範囲があり、その周りに地域社会や自治会などがあり、さらに基礎的自治体があって、都道府県や国というような構図が成り立っていた。今や個人の周りの家族がなかなか成り立たなくなり、崩壊している場合もある。このようなケースがどんどん出てきていることから、未婚の問題や核家族の問題や独居老人の問題も増え、このような時代にいかにして地域のつながりを作っていくかということは切実な問題。色々な分野の専門家と連携し、色々な地域の立場の人たちが連携していかないと社会としてなかなか支えていけない。どのようにしてこの支える仕組みを「協働」で作っていくかということが本当に大事な事。「ひろがる・つながる」はよく使われるキーワードだが、自然と出てきたということは、色々な取組をしている皆さんだからこそわかっていると思う。

むつ市に来て思ったことは、最先端の地域であること。繰り返し何度も言っているが、日本の人口減少の時代は、東京から移動距離がたっぴりかかる所ほど先進地。人口が減っている所こそ先進地なので、その最先端の地域のコーディネーターとはどのようなものか。私もすごく興味がある。むつ市の場合は、地域全体をカバーしたコーディネーターという側面もあると思うが、どういうコーディネーターなのかということは、これから皆さんで見出していかなければならない。必要なことは情報収集力、情報発信力、課題発見能力と課題解決能力、地域を見る目を養い、地域に耳を傾け、最新の情報収集を怠らないことが共通のポイントになってくる。事例を調べると

いうことを強調したが、他にどんな新しい事例が生まれているのかということはかなり勉強する必要があると思う。ネット等も普及しているので、調べる方法はたくさんある。好奇心を持ち、アンテナを張って調べることが大事。自分の興味があることや、できることと組み合わせることもすごく大事。そうすると、自分の中でよりモチベーションを持ってやるべきことや、勉強するべきことが見えてくる。今後5人のコーディネーターが決まると思うが、どう進めていくか、そのコアな5人を少しサポートするような枠組みを作るということもあるかもしれない。更に、今まで関わっていない人をどう巻き込んでいくのかという巻き込む力も必要となる。地域の課題を地域の人が、解決していくことをサポートすることが「コミュニティデザイン」。コーディネーターの役割も同じだと思う。「協働」の枠組みを作り、「つながり」も作りながら、地域の人たちのモチベーションと力をエンパワーメントしていく事により、自分たちのしたいことの延長線上で地域課題も解決できる状況を作っていくことがコーディネーターやプラットフォームの大事な役割だと思う。活動する人たちの実行力を高め、アイデアの質を高める。FAAVO等を活用して、仕掛けていっても良いと思う。去年開催したワークショップは、企画、プログラムのデザインや、場の運営含めてすべて良かった。目的とゴールはどこになるのか。そのゴールのために、どのようなプログラムをデザインしていくのか。より細かいプログラムの中身や、セッションの中身を検討する流れで、ワークショップデザインを実践した。当日の運営、ファシリテーション、テーブルコーディネーションも素晴らしかったと思うので、自信を持って展開していけば良いと思う。基礎団体のネットワークを作り、活動支援や新しいチームを作っていき、個人単位でうまくマッチングさせるなど、人材をつなぎ合わせてモチベーションを高め、信頼関係を築いていくこともコーディネーターに求められると思う。このまちづくり会議の皆さんは、十分できる方々だと思う。最初の一步を支援するなど、より勇気付けて、その人たちの活動は実はこういう効果があったと気づきを与えてあげる。

最後は次世代の話。ここが私の個人的な「気づき」だった。出張授業を開催することになり、最初は60人位で結構多いと思っていたが、最終的に120人位になった。ただ、その高校生たちは、目を輝かせて取り組んでくれたことに驚いた。むつ市の宝だと思った。きちんとふるさとに返す流れを大人が作らないといけない。そのようなお手伝いができればと思った。東北の大学なので、その一端を担えたら良いと思う。高校生からのキャリア教育はとても大事。政策アイデアコンテストも、むつ市では高校生が取り組んでいる。

これからは「発展」ということを、個人的にやっていけないかと思っている。むつ市長にも相談させてもらっている。持続的に若者が帰ってくる仕組み作りをむつ市は本気で取り組んだら良いと思う。小さい場所で構わないので、むつ市に東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の研究所を置きたい。空き店舗をリノベーションし、高校生が関わるようなイメージ。卒業生も研究員として置きたいと思う。大学にむつ市から来た人がいたら、研究員として帰す流れを作りたい。人口はどんどん減っていくが、活動人口を増やせばまだまだ町は元気になる。最後にお金の話になるが、本当に自分たちがやりたければお金を出し合っても良いと思う。クラウドファンディングを使うのも良いが、少額ずつでも自分たちで出してみる。

2年間を振り返ってみて、自分はアドバイザーという立場だったが、むつ市のまちづくりはこうあるべきとは一切言わなかった。皆さんとの学び合いの中で、得られるもののほうが大きいと思った。このようなスタイルを受け入れてもらい自分自身すごく楽しめた。学びの質や広がりを高め、自分たちで作出し、それを幸せにつなげていくことがすごく大事だと思う。

3 チェックアウト

【会長】

みなさん 2 年間本当にありがとうございました。会長になる時は、何で自分なのかと思っていたが、どうにかここまでこぎつけと思う。まちづくり会議には、私が参加している団体の代表に勧められて入ったが、実際参加して本当に良かった。この 2 年間勉強させてもらったと思う。来年からコーディネーターの活動もあるが、積極的に取り組みたい。

薬研の民宿が閉鎖し、私たちの団体が運営しているカフェの展開をどうするか検討しなければならない状況にある。今後も、まちづくりや地域の活動もあわせて頑張っていきたいと思っているので、是非皆さんにも協力していただけたらと思う。

【会長職務代理者】

もう 2 年間の過ぎたと思うと、本当にじんと来る。

市内の各種団体はかなり苦戦している。金がない、高齢化、会員が増えないの「3K」。その「3K」を解決しないと将来が無いと思う。そのような時に、大事になることは、私たちのやってきた「ひろがる・つながる」ではないかと思う。団体がつながることによって、団体が持っている資産や人材、設備やスキルなどを共有して、とても良い活動ができると思う。

例えば、お手玉などを高齢者と一緒に作り、そのお手玉等売ることで、お金が入るということも可能だと思う。これからも色々な事業を展開していきたいと思う。2 年間お世話になりました。

【委員】

2 年間どうもありがとうございました。2 年間の中で一番思い出があることはプラットフォームの検討という諮問だった。最初はイメージできなかったが、これまで会議を重ねたことで、プラットフォームを理解できた。ワークショップで印象に残っていることは、高校生とのワークショップと団体情報登録団体との「ひろがる・つながるワークショップ」。非常に印象に残っている。

残念だったことは、道の駅グッズのアイデアを発表し、その段階では評価が高かったが、実際は誰も賛同してくれる業者がなかったこと。後は、Facebook に投稿するため、月 3 回のネタ探しを頑張ったこと。継続することなことなのでとても嬉しい。2 年間どうもありがとうございました。

【委員】

私はこの町に来て 3 年となる。1 年目は、東京を行ったり来たりしていたので実はこの 2 年目に参加したこのまちづくり会議が私のむつ市デビュー。それまではむつ市で何もしていないので、振り返ると皆さんに出会っていなかったら、今の私はなかったと本当に思う。私が今動いていることの 7 割位は皆さんとの関係からできているような気がする。この会には本当に感謝していて、すごく素晴らしいメンバーに出会えたと思う。私も 3 年経過し、大分動けるようになってきたので、これからやりたいことを色々やっていくと思うが、多分皆さんには何かの折りにご相談していくと思うので、これからもよろしく申し上げます。

【委員】

皆さん色々2年間ありがとうございました。何を最初にやるのかわからなかったが、醍醐先生の指導と、皆さんに教えてもらいながら何とか続けてきた。大湊駅で観光関係者のお出迎えや下北に来たにっぽん丸の出迎えはとても楽しかった。高齢者・福祉グループで、介護予防や閉じこもりなどを無くすため、まちの駅七福に高齢者の皆さんが集まり、笑顔で楽しく過ごせるようになった。私自身も楽しんでいる。今は、関係者の皆さんから、食事会をしましょうという声上がり、交流がより深まり楽しく行っている。後は、高校生が地域について考えていることを聞いて、驚きとその気持ちを大事にして頂きたいと思った。2年間という期間は、最初は長いと思ったが、あっという間に過ぎ、本当に楽しく活動をしている人たちが大勢いることを初めて知ることができ、大変勉強になった。本当にありがとうございました。

【委員】

本当に2年間ありがとうございました。私もかなり広く、人付き合いをしている方だと思っていたが、それにも増してみなさん一人一人のおかげで人脈が更に増えた。一人の人を通して色々な団体を知ることができ、非常に勉強になった。言葉一つ一つを自ら勉強することもでき、別の委員が言ったように、高齢者・福祉グループに関しては、本当に活発に活動を実施できた。他の委員からはたびたび差し入れをもらい、市役所の方にも時々顔を出してもらい、すごく賑わっている風景を感じてもらったのではないかと思う。醍醐先生の話にも出ていたが、男性がこのような場になかなか出てこないということは、私たちの悩みの一つだった。しかし、つい最近80歳を超えた男性が参加してくれるようになった。一人来たらまた次一人来るという感じで、現在中央公民館でも実施しているが、そちらにも最近男性の方が見えた。本当に2年間ありがとうございました。

【委員】

2年間ありがとうございました。この会議に出てから、何人かの委員の皆さんに職場で声をかけられて非常にびっくりすることがあった。今まで会議での皆さんの姿しか見たことがなかったので、昼間皆さんご苦労されながらも、夜の貴重な時間を割いて集まっていると再確認した。また、私の場合はポートに非常に強く関わっているが、その中で、時間がないから出来ないではなく、出来ないなりに何か出来る部分を自分でどうにかする。その術をこの2年間で少しは勉強させてもらったと思う。今月で卒業するが、これからもこの町に住み続けていくつもりなので、出来ることは是非ご協力させてもらい、また自分でやっていかなければいけないことは声を大にしてやっていこうと思う。今後私も何かあったときは是非ご協力するので声をかけていただけたら嬉しい。本当にありがとうございました。

【委員】

2年間どうもありがとうございました。若い方々と、2年間取り組んでこれたことはすごく嬉しく思う。別な団体にも参加しているが、商工会議所の女性会やソロプチミストなど、金谷公園のあじさいをいっぱいしようという活動や、安渡館にもあじさいやチューリップを植える活動をしていた。最初はすごく場違いなところに入ったと思った。しかし、だんだん会議を重ねるう

ちにとても楽しくなり、委員の皆さんとは色々なイベントでも一緒になり、本当に色々なつながりができた。これからもこのつながりと勉強したことを大事にしていきたいと思っている。また、何かあったら皆さんと顔を合わせたいと思う。よろしくお願いします。本当にありがとうございました。

【委員】

事務局のみなさん、醍醐先生ありがとうございました。私は大型客船の出迎えの際、「何でもいいですよ、何かしましょう」と言われ、自分で何かできることはないかと考え、金魚ねぶたの変形でムチュランねぶたを作ってみようと思った。実際に作ってみたら、周りの方々から「これいいね、作ろう」と言ってもらい、りんどうの会の皆さんと一緒に作った。その後、下北の凧の会の方で、もっと上手に作れる人がいるということがわかり、3月27日開催の「わらしランド」では、凧の会の皆さんとりんどうの会の皆さんが、子どもたちにムチュランねぶたの作り方を教えてくれるという形でつながっていている。それともう一つ、私はあちこちで廃校になったグラウンドや校舎が、朽ちていくのはいやだと思っていた。自分で何かできないか。ということ、この会での自分の大きなテーマとしていた。今年は脇野沢小学校の移転に伴い、グラウンドが使われなくなる。何とかしたいと思い、地域の方と、色々考えることがあった。地域の人たちは昔の仮装行列がとても強く印象に残っている。私が覚えていない話があり、人が集まると色々な考えや思いがあると感じた。ハーブを作ったら良いのではということが一番大きくなっているが、私はかぼちゃを作って、仮装行列したら楽しいのでは思ったりしている。そのように発展していく「ひろがる・つながる」ことが、まちづくりに少しずつつながっていったら良いなと思った。これからも、人口がどんどん減っていき、脇野沢小学校に入学する児童がいないという状況でもあるが、少数制で頑張るようによければ良いと思っている。脇野沢には牛ノ首という公園があり、山野草が綺麗な所なので、前もって連絡してもらえれば私は案内できる。是非来て欲しい。2年間お付き合いいただいてありがとうございました。

【委員】

2年間お疲れ様でした。ありがとうございました。私の場合は、これまで県外で半年働き、半年旅行している状態だった。60歳で引退してからむつ市に帰ってきたが、むつ市を全然知らない中でまちづくり会議の委員になったので、色々むつ市のことを知ることができた。何も知らなかったので、むつ市は順調にしているのかと思っていたら、逆に銀行が少なく、色々な面で予算も少なく、うまくいっていないからまちづくり会議ができたということを知った。自分で出来ることは何かないかと考え、今回2年間で青森杉のハーブというものを作り、若い人の仕事を生み出そうと頑張ってきた。ただこれは10年先の話なので、どうなるかわからない。今回まちづくり会議を卒業し、これから出来ることをやっていこうと思う。この2年間で、やはり皆さんと出会い、知り合いになったことがすごく嬉しかった。

【市職員】

2年間お疲れ様でした。2年前に庁内で募集があり、同期に誘われて参加した。正直、このような集まりに参加することが初めて、最初はとても緊張した。人前で話すことも伝えることも苦手で、本当にやっていけるのかと思った。しかし、皆さんのおかげですごく勉強になった。これ

からも皆さんと関わる部分があると思うので、今後ともよろしく申し上げます。2 年間ありがとうございました。

【市職員】

2 年間ありがとうございました。この会議に関わったきっかけは、同期に誘われたから。私は話すことが苦手で、このように話していても何を話して良いかわからなくなる私がこのような大事な会議に関わって良いのかという所から始まった。しかし実際関わる事ができて本当に良かった。私は青森市出身なので、この会議に参加しなければ、いくら市職員でもむつ市のことをわからないまま過ごしていたかもしれない。一番心に残っていることは、Facebook の更新のこと。ネタ探しという名目で、私の好きな食べものばかり買って投稿していた。おいしそうなのがあるとなついで買ってしまい、そのことについて投稿していたが、内容が似通ってしまい、上手く書けず何時間もかかってしまった。これからも Facebook の更新は続ける形になるので、もし機会があればもう少しまとめて投稿したい。その時はよろしく申し上げます。2 年間ありがとうございました。

【元委員】

2 年間本当にお疲れ様でした。「元」になってしまい大変申し訳ないと思う。桜田会長には重荷を背負わせてしまったのかなと思ったが、今日の答申内容を聞いて素晴らしいと思い、大変感激していた。先ほどの VTR を見ると、高齢者・福祉グループの皆さんは今のほうが若い感じがして、生き生きしているので、是非このまま進んで欲しいと思う。今日でまちづくり会議は終わりとなるが、実際やってみると実績や成果というものはなかなか生まれにくいものだと思った。ただし、継続していくことで、それが大きくなつたがりになっていくと思う。